

Rotary

奉仕しよう みんなの
人生を豊かにするために

Serve To Change Lives



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会 長 倉 井 章

幹 事 渡 邊 和 裕

会報・雑誌委員長 原 賢一

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ

例会日 毎週火曜日(12:30~)

事務局 ホテルニューイタヤ内 宇都宮東ロータリークラブ TEL.028-638-5125 FAX:5128

通算2938号 2022年1月25日(晴れ) 第26回例会 会員数114名

ハイブリッド例会



点 鐘 倉井 章会長



司 会 副SAA 山崎会員

◇ロータリーソング「それでこそロータリー」

※マスクを着用し、心の中で斉唱

◇持帰り弁当



ビジター紹介

渡邊和裕幹事

◇下野新聞社 取締役 飛田 博通 様



会長挨拶

倉井 章会長

皆様、こんにちは。本日も例会にご参加頂きまして有難うございます。

先々週から再び県内でも新型コロナウイルス感染症による新規感染者が増加し始め、先週には各地域でクラスターが発生しております。本県においては、1月19日より同月31日まで“レベル2 感染拡大期”が発令されており、「基本的な感染対策をさらに徹底」「会食をする場合には、4人以内、2時間以内で」「不要不急の都道府県間の移動を極力控える」等とされております。更に、現在、レベル3相当の“まん延防止等重点措置”適用を政府に要請している状況で、今週中には措置が決定されるとの事です。本県における状況は、感染者の新型コロナウイルス遺伝子情報において、その約84%以上はデルタ株以外の変異株とされております。臨床上の特徴として、日常診療では小児から30歳台までの感染者が多く重症例は少ない印象がありますが、先週より高齢者の感染者数が増加し重症例も増加傾向にあるそうです。早い時期のブースター接種及び密を避け、手差し消毒、マスク着用、飲食を伴う会合等について、感染拡大防止に十分注意されますようお願い致します。また、まん延防止が出た場合には緊急理事会

を開き、例会の運営について検討し、皆様にご案内させていただきます。

今月20日、東武ホテルグランデにおきまして2021～2022年度第3グループA・Bの10クラブにより第2回会長・幹事会が、宇都宮西ロータリークラブのホストで開催されました。10月～12月の活動報告と、1月よりの活動計画を、各クラブより発表されました。例会の回数、オンラインの有無、感染対策、食事への対応等、クラブ毎に様々であり、どのクラブもいろいろな工夫をしておりますが、大変な例会運営となっているようです。食事は通常提供のクラブもありましたが、お弁当の提供が多いようで、参加できない会員のためにYou Tubeの配信をしているクラブもありました。

その他、IMについての案内があり、3月5日(土)に開催予定ですが、各クラブ10～15名の限定だそうです。内容は、地区研修リーダーの中谷研一パストガバナーより1時間の卓話の後、各クラブより「コロナ禍における各クラブの活動工夫」の発表を行う予定だそうです。

本日は、下野新聞社 取締役 飛田博通様に、映画「島守の塔」のお話をして頂きます。映画「島守の塔」は、第二次世界大戦の末期、長期にわたる日本国内唯一の地上戦があった沖縄を舞台に、軍の命令に従いながらも苦悩し、県民の命を守り抜こうとした戦中最後の沖縄県知事・島田叡氏と、知事に付き従い職務を全うしようとした警察部長・荒井退造氏、そして2人から命の重みを受け継いだ沖縄県民の戦火に翻弄されながらも必死に生きるそれぞれの姿を描いた映画です。荒井退造氏は、宇都宮の出身であります。

本日も最後まで宜しくお願い致します。



幹事報告

渡邊和裕幹事

- ◇地区大会のDVD届く。レターBOXに配布。
- ◇3月5日、第3グループA・B IM ホテルニューイタヤにて開催。ホストは宇都宮陽南RC。詳細と参加募集は後日お知らせします。



委員会報告

- ◇スマイルボックス委員会 野添副委員長 床井光雄会員

1月27日(木)午後5時よりNHK BSプレミアム ザ穴場ツアーという番組で当園の宮ゆずが紹介されます。よかったらご覧下さい。

「ポール・ハリスとロータリー」動画鑑賞
 ー 第5章 ロータリーの精神(後半) ー
 ※『ロータリーの友』HPのアニメーション動画配信より



卓話



「沖縄県民20万人を救った荒井退造の映画「島守の塔」」

下野新聞社 取締役 飛田 博通 様

現在、映画「島守の塔」の製作委員会の運営部会長、事務局長をしております。本日は「平和構築と紛争予防月間」である2月を前に映画「島守の塔」の紹介の場を頂き感謝申し上げます。

映画「島守の塔」は、倉井会長からもご紹介がありましたが、第二次世界大戦の末期、長期にわたる日本国内唯一の地上戦が行なわれた沖縄を舞台に、本部より派遣された内務官僚、兵庫県出身の知事の島田叡と栃木県出身の警察部長の荒井退造が軍の圧力に屈しながらも、苦悩して、県民の命を守り抜こうとしました。この二人の島守と沖縄戦の戦火に翻弄されながらも必死に生きる沖縄県民、それぞれの生きる姿を描く映画です。歴史的背景は、お手元の資料やホームページをご覧いただければ幸いです。本日は別の視点からお話を

させていただければと思います。

映画「島守の塔」は2020年3月、クランクインを致しましたが、新型コロナの第1波の影響を受け、1年8ヶ月余りの撮影休止に至りました。昨年11月に栃木県でクランクインしまして12月に沖縄県でクランクアップいたしました。荒井退造役に村上 淳、島田叡役に萩原聖人、二人に尽くした沖縄の少女、比嘉凛役に吉岡里帆をキャスティングしています。佐野市の宇津野洞窟、宇都宮市の大谷資料館の地下空間、宇都宮高校の白亜館、鹿沼市の御殿山野球場、市貝町の入野家住宅、栃木市の横山郷土館、岩舟のクリフステージなど、栃木県内で数多く撮影しております。公開の際には注目していただければと思います。

※映画「島守の塔」の話の前に、舞台となる今の沖縄についてのお話がありました。

- ・沖縄では新型コロナの感染者の流行が繰り返されている。高山義浩沖縄県立中部病院感染症内科の先生によると、原因として①人口密度の高さ②移動人口の多さ③若者人口の多さ④有配偶率の低さ⑤世代間交流の活発さ⑥締め切った生活環境(夏季)⑦在沖米軍における流行を挙げている。
- ・米軍基地について 1945年沖縄戦の最中、宜野湾一体が米軍の支配下になると、工兵隊によって米軍の上陸と同時に普天間飛行場の建設が始まる。終戦となり、米軍の管理下となる。1972年5月15日に沖縄返還となったが、米軍基地は維持したままの返還。1999年辺野古への基地移設が閣議決定される。
- ・辺野古の埋め立てに、本島南部地区の土砂採掘の計画があったが、ここは沖縄県最後の激戦地で、現在も多くの戦没者の遺骨が含まれている。この土砂を使わないように、という意見書が全国の地方議会で可決された。
- ・遺骨の収集状況は、沖縄県の資料によると、2021年7月現在、収集対象数は188,136柱で2,825柱が見つかっていない。ここ10年では900柱ほどが見つかっている。土砂には、島田叡、荒井退造も含まれていると思われる。

この沖縄戦の激戦地、本島南部に位置するのが平和祈念公園です。6月23日に式典が行なわれておりますので、中継等でご覧になっていると思います。この公園は糸満市摩文仁の丘陵にあり、美しい海岸線を眺望できる台地にあります。公園内には沖縄戦の写真や遺品などを展示した平和祈念資料館、沖縄戦で亡くなられたすべての人々の氏名を刻んだ「平和の礎(いしじ)」、戦没者の鎮魂と永遠の平和を祈る「平和祈念像」がありま

す。そして海の近くには国立沖縄戦没者墓苑や府県、団体の慰霊塔が50基建立されています。「平和の礎」は出身地別に刻銘されており、沖縄県は約149千名と最も、栃木県は696名のお名前が刻まれております。これは、太平洋戦争・沖縄戦終結50周年を記念して、沖縄の歴史と風土の中で培われた「平和のこころ」を内外にのべ伝え、世界の恒久平和を願い、国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦などで亡くなられたすべての人々の名前を刻んだ記念碑です。沖縄戦の期間は1945年3月26日から9月7日までで、その期間に戦没した方と、その他32軍が創設された1944年3月から1945年3月までの間に南西諸島において亡くなられた方等も含まれております。このようなことで、沖縄戦で亡くなられた20万人を超える24万人の名前が刻銘されております。

「島守の塔」は、先程の公園の中にあります。沖縄戦で殉職した島田叡知事と荒井退造警察部長をはじめ、県職員469名を祀る慰霊塔です。1951年(昭和26年)に旧県庁の生存者三百数十人や県民を中心とした浄財の寄付により建立されました。摩文仁の丘には、陸軍の司令部壕の他にいくつかの壕があり、その中の軍医部壕から島田知事と荒井警察部長は2人で外に出てゆき、消息を絶ち、未だに遺体が発見されていないことから、この軍医部壕が2人の終焉の地とされております。「島守の塔」の奥に二人の終焉の地の石碑があります。

公園の案内図には、沖縄の塔である島守の塔が一番目に表示され、そのすぐ下に栃木の塔が表記されています。栃木の塔は昭和41年11月に建立され、沖縄戦戦没者676柱と南方での戦没者3万柱余りが合祀されています。石は足尾の石や大谷石など使っています。また、背中合わせに島田叡出身の兵庫県の「のじぎくの塔」が位置しており、地図で見ますと、3県の塔が寄り添うような形で位置されていることがわかります。

第二次世界大戦において日本人の戦没者数は310万人でした。沖縄戦の戦没者は約20万人、3月10日の東京大空襲は11万人、7月12日の宇都宮空襲が628人、8月6日の広島原爆で年内に14万人、8月9日の長崎原爆で年内に7万4

千人死亡しており、いかに沖縄戦の戦没者が多大であったか、おわかりいただけるかと思います。非常に悲惨な地上戦が繰り返されました。この沖縄戦がなぜ認知度が低いかというと、近現代史の学習不足が挙げられます。2005年に国立の教育政策研究所が行なった調査では、日本史Bの近現代史分野では生徒の90%が標準的な正答率を下回ったという結果とのことです。中学校、高校ともに、歴史授業は古い時代から学ぶ傾向があり、近現代史は受験直前ということで、内容がおろそかになり、なかなか沖縄戦が認知されない状況にあります。だからこそ、映像として残していきたいと考えております。

島田叡は兵庫県神戸市須磨区出身で兵庫高校卒業、東京大学卒業後、各地を赴任した後、最後の官選知事として沖縄に赴任しました。43歳で亡くなりました。荒井退造は栃木県宇都宮市上籠谷の出身です。旧姓宇都宮中学(現：宇都宮高校)を卒業、高千穂大学に進学、後に明治大学夜間部を卒業し内務官僚になり、1943年沖縄の警察部長に就任しました。1945年3月までに県民7万3000人の県外疎開に成功しました。その後、沖縄に米軍が上陸したため、南部から北部に15万人を避難させて、20万人以上の命を救ったとされています。44歳で亡くなりました。

二人の島守が命をかけて「命(ぬち)どう宝、生き抜け！」と沖縄県民に呼びかけました。二人の命の重みを受け継いで沖縄戦を生き抜いた沖縄県民、それぞれの苦悩と生きることの奮闘を描いております。今年の5月15日、沖縄本土復帰50年の節目となります。昨年撮影を再開し、その1年前には荒井退造の生誕120年記念ということでシンポジウムも開催し、昨年末には神戸で島田叡生誕120年記念のシンポジウムも開催されました。沖縄本土復帰50年の節目、おそらく劇場公開は秋くらいになるかと思います。そして、劇場公開が終わった後には2023年になるかと思いますが、学校や教育現場にDVDを置いてもらうことを考えています。映画のご支援、ご協力、よろしく願い致します。